

2016 米大統領選 分断大国

オバマ大統領が掲げた「二つの戦争を終わらせる」という公約は、達成されないまま、次の政権の課題として引き継がれる見通しとなった。米国内には厭戦気分が広がる一方、超大国としての指導力低下を懸念する声も交錯する。

10月3日、アフガニスタン北部グンドゥズ。国際医療NGO「国境なき医師団」の運営する病院が突然、上空から攻撃された。米軍による誤爆だった。医療スタッフや患者の22人が犠牲になり、国際社会から激しい非難の声が上がった。

# 帰還兵「戦争 選挙の道具に」



アフガン戦争などでの経験を語るライアン・カウフマンさん。10月28日、グランドアイランド、奥寺淳撮影

決断だ」と口にした。

「自分たち兵士を、(大統領になるための)選挙の道具に使ったのかと言いたい。国民が怒っているのはその点だ」

米英軍がアフガン空爆に踏み切った2001年10月、第一陣として派遣されたライアン・カウフマンさん(33)は、唇を噛める。オバマ氏は08年、イラクとアフガンという二つの戦争を終わらせると公約して大統領に当選した。当初の予定を遅らせながらも、任期満了直前の16年末にはアフガンから米軍を撤退させるとしてきたが、17年1月の任期満了後も兵を残す方針に転換した。

# アフガン撤退 消えた公約に怒り

に苦しんでいる。次の大統領候補者たちは、このことを忘れてしまっているんじゃないか」。カウフマンさんは、大統領選で帰還兵の現状や、戦争に向き合う国のあり方などがほとんど語られないことにも、政治と自分たちとの溝を感じる。

アフガンとイラクからの帰還兵は全米に二百数十万人いる。米シンクタンクのランド研究所の研究では、このうち約20%が戦闘体験や恐怖からの心的外傷後ストレス障害(PTSD)やうつ症状を患っているという。米退役軍人省などによると、すべての退役軍人のうち1日平均18〜22人が自殺している。

カウフマンさんも、その一人になる寸前だった。グランドアイランドで育ち、大学進学の際の経済的余裕がなく、00年に陸軍に志願した。町には、同じように経済的な理由で軍に入隊する若者が多かった。01年9月に同時多発テロが起き、翌月に通信兵としてアフガンに派遣された。「死にたくないと考えたが、責任だと思っただけで現地向かった」

が、いつ頭上に弾が飛んでくるかと思っただけで神経がすり減った。寝食を共にした仲間も戦場で失った。03年に派遣期間を終えて一時帰国したが、食事のどろを通らず、眠れない日が続いた。酒におぼれ、マリファナにも手を染めた。手元にあつた1万2千ドル(約144万円)が9月で底をついた。結局、そのまま陸軍を除隊した。半年前まで世界最強の米陸軍の一員だった自分が、ホームレスになっていた。支援施設や友人宅を転々とする毎日で、酒に酔って自殺未遂に及んだこともあった。

退役軍人支援団体の仲間が支えてくれ、立ち直るまで8年の歳月がかかった。退役軍人省の支援で大学にも通い、いまは帰還兵を支援する側に回っている。

帰還兵が置かれる厳しい現実を、全米各地でいまも解決されていない問題だ。「私たちは戦争に疲れ、そのコスト負担にも疲れている」。カウフマンさんは、民主党も共和党も、外国の紛争地に地上部隊を派遣することに慎重になっている理由を、こう語る。